



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

器の大きい人

チームづくりにおいて、「チームワーク」と「チームビルディング」という言葉を聞きます。チームワークは、チーム内のメンバーが協力して協働することであり、目標に向けて必要なタスクのことです。一方で、チームビルディングは、チーム内の関係性や協力の質を向上させるためのプロセスで、信頼関係やコミュニケーションの促進が目的になります。つまり、チームビルディングは、チームワークを強化する手段の一つと考えることができます。

1つの具体例として、私は、学年の先生から年度当初に「アサーション TR」等の、学年生徒のチームビルディングを依頼されることがあります。本年度も、中1と高1で実施しました。メンバーの関係性が少しでも促進されるような授業をしました。

「チームビルディング」「チームワーク」の大切さは当然みんなわかっています。ただ、「どんなチームになるのか」の前に、「どんな人になるのか」の“人となり”が、「基本のキ」になることは言うまでもありません。

私は、「どんな人になりたいのか」という人間性の部分で、「器の大きい人」という意識を最上位に、教師・生徒共に目標にしてほしいと思っています。なぜなら、これからの時代は、この力が、社会で活躍する力になると考えているからです。器が大きいと感じる人と話すと、とても楽しいし、「この人と働きたい、この人と話したい」と思うからです。みなさんの友だち同士でも「この人と学びたい、この人に話を聞いてほしい」となるとおもいます。

「チームビルディング」はチームの関係性のことであり、その手前での個の在り方が「器の大きい人」です。私が指導していたチームスポーツでも、個の力がなければ、チームとは言えず、寄せ集めの集団であるとよく言っていました。これは試合に勝つ負けるだけの話ではなく、一番重要な「人間的に成長ができるチーム」の話です。

さて、「器の大きい人」ってどんな人なんだろう。想像して、友だちと話し合ってみてください。私的に想像したことをいくつか述べてみます。

「器の大きい人」は、違う価値観を受け入れるが、「器の小さい人」は、同じ価値観を求める。これは、私がいつも話す「異質のたし算」の話に重なるかな。

「器の大きい人」は、自分の欠点を笑い話にできるが、「器の小さい人」は、他人の欠点を責める。これは、自己開示する際にはとても大切なことです。私は、自虐的なネタで人から笑ってもらうのは結構楽しいと思っています。また、相手がそうだと、とても安心するし、心理的な壁が低くなります。

「器の大きい人」は、その場にはいない人をほめるが、「器の小さい人」は、その場にはいない人の愚痴を言う。これは、ウインザー効果（第三者からの情報の方が圧倒的に信頼される）につながる話で、「いい陰口」が一番うれしかったりします。

「器の大きい人」は、人の幸せを自分事のように喜ぶが、「器の小さい人」は、人の幸せを喜べない。いろんな場面では他の活躍をリスペクトの精神で拍手するのは、器を大きくする練習です。

「器の大きい人」は、自分の機嫌は自分で取れるが、「器の小さい人」は、他人に機嫌を取ってもらう。他者に機嫌を取ってもらうのが許されるのは赤ちゃんだけで、大人がすると、それは「不機嫌ハラメント」です。

「器の大きい人」は、ミス素直に認めるが、「器の小さい人」は、責任転嫁する。・・・

まあいろいろあるとは思いますが、私は個人的にここに書いたようなことを思っています。

最後に、生徒のみなさんに一言。学級目標は、どのクラスにもあります。それは、協働的な目標ですね。その目標の手前の、個人的に「どういう人になりたい」のところで、「器の大きな人」について考えたり、話し合ったりしてみるのもいいと思います。

（学校長 重枝 一郎）